



様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
課長	開会・あいさつ
市長	委嘱状交付
市長	市長あいさつ
課長	委員紹介・事務局紹介
	<p>会長・副会長の選出            会長：田中 充 委員            副会長：秋元 智子 委員</p>
事務局	<p>議題1として、(1)「会議の公開・非公開」、(2)「会議録の作成方法」、(3)「会議録の確定方法」の3点を参考資料により説明。</p>
	<p>質疑応答</p>
会長	<p>議事録はどこで閲覧できるのか。</p>
主幹	<p>市政情報センターで閲覧が可能です。また、市のホームページで公表を行います。</p>
	<p>決定事項</p>
	<p>(1) 会議については、公開とし、傍聴の人数については会場の大きさにより制限することを確認した。</p>
	<p>(2) 会議録の作成について、委員の発言、質疑応答は要約筆記とし、発言者については、単に「委員」と記載することとした。</p>
	<p>(3) 会議録については、会長が確認し確定することとした。</p>
事務局	<p>議題2、議題3、議題4について、資料1-2、資料1-3、及び参考資料により説明</p>
	<p>質疑応答</p>
会長	<p>委員からは、素々案に対する意見だけではなく、取組みについての意見も出していただくとの理解でよろしいか。</p>
主幹	<p>その通りです。</p>
委員	<p>予算措置はどうなっているのか。県からの補助金はあるのか。また、参考までに、県のエコタウンプロジェクトの予算を伺いたい。</p>
委員	<p>県のエコタウンプロジェクトは5市で7～8億円の予算で実施した。特に本庄市と東松山市についてはそれぞれ2億5千円の予算がついた。取り組み内容としては、太陽光発電の設置補助、避難所のエコモデル化、メガソーラー設置、省エネ診断等があげられる。所沢市の場合、まずし</p>

	<p>っかりとした構想を策定する中で具体的な取組みを検討し、その上で予算取りをしていくことになるのではないかと。</p>
部長	<p>マチごとエコタウンは市長公約の中でも力を入れて取り組みたいと考えているもので、議会でも一貫して申し上げています。市長としても、期待を持っているので、皆様には様々な意見・提案をしていただきたい。</p>
委員	<p>商工会議所として県にもお願いしているところだが、太陽光設置の補助対象に事業者も入れてほしい。</p>
会長	<p>マチごとエコタウン所沢構想の策定により、県のエコタウンプロジェクトに所沢市が追加され、支援されるということはあるのか。</p>
委員	<p>現在は5つのモデル市を先行して取り組みたいと考えている。全体の補助額は5,000万円程度であるが、「ふるさと創造資金」という制度もあるため、手を挙げていただければと考える。</p>
会長	<p>国や県の補助制度を活用できないか研究をし、予算的な対応を検討していくことが必要であろう。</p>
委員	<p>飯能信用金庫としては、飯田市の例のように、市民ファンドへの出資等は考えていないのか。飯田市では信用金庫が強力にバックアップをしたとのことである。</p>
副会長	<p>補足だが、当初、飯田市では太陽光の設置に関して借入れができなかったこともあり、市民ファンドを設置し、資金を集めた経緯がある。国の「まほろば事業」を活用しながら、公共施設へのシステムを設置した。ファンドで集めた資金は現在出資金として返還している。また、個人住宅への太陽光発電設備の設置に掛かる費用を立て替え、割賦で返還していく「おひさま0円システム」という制度もある。飯田市では、ファンドに対して地元の金融機関がかなりの出資をしている。所沢市において市民ファンドが盛り上がった際には、地元の金融機関の協力は大きな力になる。現段階で、何か検討していることはあるか。</p>
委員	<p>現状では、市民ファンドに関する事項は白紙であるが、事業として固まってきてから、市中の他金融機関を巻き込み、協力ができればと考えている。</p>
委員	<p>基礎調査の結果によると、太陽エネルギーが最も有効とのことだが、狭山丘陵は所沢市の特徴であることから、木質バイオマスの活用もマチごとエコタウン構想の一環として考えられないか。それに関連して、木質バイオマスエネルギーの算出方法及び検討しているエネルギーの活用方法があれば教えて頂きたい。</p>
課長	<p>森林成長量の算出方法は学術論文を参考にしており、1年間で成長した分をエネルギー量として計算しています。太陽光以外のエネルギー利</p>

	<p>用についても、よい取組案が提案いただければ、取り入れたいと考えています。</p>
委員	<p>参考までに、森林緑化研究所と実施した研究で、所沢市の雑木林 10 a を薪にすると、約 4 軒分の住宅の 1 年間のエネルギーを賅うことができるという試算結果が出た。しかし、人件費等を考えると採算は合わないのが現状であるので、ボランティアとリンクさせて考える必要があると考える。</p>
委員	<p>秩父市は、木質バイオマスの賦存量が非常に多いが、コスト的に誰が木を切り出してくるのかということが課題になっている。埼玉は晴天の日が最も多いとされていることから太陽光に加重している。風力・水力・バイオマス関係についても実験的・実証的ではあるが取り組んでいきたいと考えているが、現状としては採算ベースには乗ってこない。</p>
委員	<p>自動車から排出される温室効果ガスの削減のため、交通に関する取組みもエコタウンを実現する上で重要ではないか。所沢市内は交通渋滞が問題になっている箇所がある。例えば、自転車利用の促進や公共交通機関の利用促進等、所沢市としてできる CO2 対策があるのではないか。また、エコタウン実現のためには、規制緩和や特区の申請を国に対して働きかける必要があるのではないか。次回の検討委員会には、取組みの実施スケジュールも提示していただきたい。</p>
委員	<p>基礎調査のアンケート調査は適切な設問ではないように感じる。年齢や移動の目的を考慮せず利用した交通機関を聞いても意味がない。また、開発とみどりの保全を対立概念で捉える時代は終わった。いかに開発を保全と共に進めるかを考える必要がある。再生可能エネルギーの導入についても、調査対象とすべきは若年層であると考え。みどりの保全・創出といっても、狭山丘陵などの大きな自然に対する意見というよりも身近な自然に対する自由意見が多いように感じた。もう少し意見の整理が必要なのではないか。</p>
会長	<p>資料 1-3 にもあるように、エネルギー・みどり・資源循環を、教育・人づくりの視点で繋ぐこと、これは構想の方向性としてはあり得る。その他、交通系の施策をどうするか。みどりについても大きな緑と身近なみどりを分けて考える。また、太陽光だけでなく、省エネの取り組みも考えられる。今挙げられている取組み以外でも視野を広げて項目を出すのもいいだろう。所沢市にはごみ焼却施設が 2 つある。つまり、エネルギーを作っていると言える。発電だけでなく、複合的な熱利用も考えられる。ごみ焼却施設の建替えや更新があれば、エネルギーの有効利用の視点も必要である。一般廃棄物由来のバイオマス発電も FIT 制度の買取対象にもなっているため、有力な資源として捉えられる。所沢市で住宅を新築する場合は、断熱、自然エネルギー利用型にしていくことを前提とするといったことも検討していく必要があるのではないか。今後、事務局から示される提案を 1 つのテーブルに載せて、実現可能性も考え</p>

	<p>て、整理していければよいだろう。短期的な成果だけではなく、時間をかける中・長期的な成果も目指すべきだろう。今後の所沢のまちづくりにも生かされるような提案をしてはどうか。</p>
委員	<p>大規模な建築物は新たな省エネ基準が今後適用されることが決まっている。小規模住宅についても 2020 年に建築基準法に盛り込み、義務化していこうという議論がされている。ヨーロッパほど厳しくないが、今よりは厳しい基準となることが予測されるが、我々は必須と考えている。市のバックアップがあれば建売住宅でも省エネを取り入れる流れが進むだろう。その流れに適應できない工務店などは撤退していく方向になるだろう。今後は、自然エネルギーをどうコントロールするかがテーマになっている。</p>
委員	<p>「エネルギー」「資源循環」「みどり」がこの構想の 3 本の柱となっているが、アンケートの内容から考えると、どこでも同じような結果になることが予測されるため、物足りない感がある。所沢市の強みや特徴は何か、と考えた時に、所沢市は都心から始めて見て樹林地や畑が出てくる地域であるので、都心の近くでの農的なライフスタイルが提案できるのではないかと。また、最近の傾向として、今の若い人の所得の伸びが期待できないことから、3 世代で住む人が増えている。コミュニティの形成の観点からも、3 世代住宅は震災以降の新しいライフスタイルであると考えられる。また、「もったいない」は構想のキーワードになる。生活者の目線で 3 本の柱を再検討してはどうか。</p>
会長	<p>所沢から新しい住まい方の文化、環境スタイルを創る方向性というように解釈をした。農的なくらしをしつつも都会的なくらしもでき、さらには環境に配慮したやさしい暮らしもできる。そして、精神的な交流や世代を超えた交流もあるコミュニティを目指すという、ハードやソフト、ヒューマン(人の心)を含めた暮らし方を提案できないかということだと考える。</p>
委員	
委員	<p>国交省では、街中を歩いて買い物ができることを推し進めている。自転車ブーム、ウォーキングブーム、高齢者の 4 輪電動カー、地方でよく使われている。ゴーカートも公道で走れるようになったと聞く。</p>
委員	<p>県の西部地域は人口も多いが自然も多い。また、都心に近いゆえに、不法投棄の問題がある。住民は環境に大変関心があるし、大きな企業も立地している。住民の力も構想に取り入れていければよい。</p>
委員	<p>県民の環境に対する意識は高いと感じている。より市民の方の意識が向上するような、人づくりも視野にいれた、取り組みにしていければよい。</p>
会長	<p>まちごとエコタウン所沢構想は、ハードだけでなくソフトについても検討できればと考えている。また、フォーラムの様な形で、市民との意</p>

<p>部長</p> <p>事務局</p>	<p>見交換をするような場を設けても良いのではないだろうか。</p> <p>また、ごみ・みどり・交通などの分野にも話が及ぶため、環境総務課以外の課でも関連する部局には会議に参加いただけるよう調整をお願いしたい。</p> <p>資源循環課やみどり自然課等、関連する部署には次回以降の会議に出席するように伝えます。</p> <p>第2回会議の日程については、委員の予定を確認したうえで決定し、改めて通知をすることとした。</p> <p>閉会</p>
----------------------	--